

文章表現の基本

必ず守りたい文章表現時の注意事項

以下に示されている事柄を守るだけでも、文章が上手くなる。何より、読みやすくなる。

- (01)1文(1センテンス)は40字以内を心掛ける。
- (02)言い切りの言葉「～である」「～です」は統一して使う。
- (03)副詞はなるべく使わない。『ときどき、もっと、決して』など。
- (04)接続詞の使用は出来るだけ少なくし、必要なところのみに使うようにする。
- (05)むやみに指示語を頻発しない。
- (06)不用意に「こと」「もの」などはなるべく使わない。
- (07)「思う」「感じる」「考える」は使わない方がよい。

(01)～(07)は特に重要である。全国紙5紙の2001年～2014年までの約45000社説を分析し、求められたターゲットである。副詞、接続詞は、新聞1社説1200文字の文章でも数語しか使われていない場合が多い。指示語も同様である。

- (08)論文の場合は、体言止、倒置法の技法は使わず、言い切るようする。
- (09)論旨展開は、なるべく肯定しながら進めるようする。
- (10)句読点は小まめにつける。句点「。」を忘れない。
- (11)できる限り漢字を使う。
- (12)原稿用紙の書き方に従う。但し、読みやすさが書くときの原則で、出版物の習慣を見習おう。
- (13)引用文はその出典を明らかにする。コピー＆ペーストを使わない。
- (14)カタカナ語は、多くの人にとって意味がはっきりとしている単語のみを使う。
- (15)むやみに単語を短縮して使わない。

表現する内容こそが重要

書く技法などは、直ぐに習得できる。『「書く」15のポイント』を守ればよい。15のポイントを注意しながら書けば、文章は引き締まる。何度か練習をすれば修得できる。問題は、書く内容である。主張したい事柄である。これは、日々、貯めなければならぬ。視て、聴いて、考えて、メモをしていく。メモの中身は自らの視点である。メモが貯まれば、主張ができていく。

— 読んでくれる人たちがいて表現する意味がある —

◆伝えようとする姿勢を大切に

- 1.自分であることを明らかにできるように心がけよう。
 - 2.格調高く表現しよう。(内容・主張に応じた最適な単語を選び、簡潔に表現する。)
 - 3.文章にリズム感を表わそう。読み易くするように心がけよう。
 - 4.読む、聞く人の期待に応えられるようにしよう。
 - 5.複数文章を重ねても、1文章内でも、矛盾が現れないようにしよう。
- ☛表現姿勢が、書かずとも行間を埋める。相手を想って書こう。

◆内容の展開に注意する

- 1.読む、聞く人を合わせた皆の未来を表そう。
 - 2.ミッションに従った目的を常に明確にしておこう。
 - 3.読む、聞く人にイメージ形成ができるように心がけよう。
 - 4.読む、聞く人に解を押し付けず、解を導きだせるようにしよう。
- ☛読者の理解を意識する。共通項が必ず見つかるはずである。

◆書き始める前に

- 1.前提、背景、内容、目的を統一しよう。
 - 2.趣旨をイメージさせる決め手のフレーズを用意しよう。
 - 3.伝えるべき趣旨となるキーワードを数語設定しておこう。
 - 4.使用する言葉の意味を自分なりに定義しておこう。
- ☛習慣づけると、無駄のない、矛盾のない表現ができるようになる。

◆表現する目的を明確に

- 1.共に考え、共に行動できるようにしよう。
- ☛書く目的は分かってもらうだけでは道半ばだ。協働できて意味がある。

上手く書けるようになる方法

じっくり考えて、一気に書く。文章を書きながら考えるのも悪くはないが、リズム感が消える。文章が固くなりやすい。書き始める前にじっくりと考える。趣旨のキーワードを整え、読んでくれる人を考える。書こうとする内容が決まったら一気に書きあげる。